

3 ページ見本 [2 ページ目の執筆要綱を読んでから原稿作成をお願いします]



河口湖から御坂山へ
 河口湖から御坂山へ、左すれば河口湖へ出られる。

山の上からは富士山の絶景
 山の上からは富士山の絶景は、もう見慣れた風景が、北から東にかけてこそ林立する崖に驚かされる。その先で道は、軒の山小屋へと、一手に分かれるが、どちらへ行っても道は変わらない。山頂へは四季折々の景色を眺め、歩きやすい舗装路を登る。関連



三ツ峠山頂 (御坂山)。前景のびているのが新戸尾

04 最も均整がとれた富士山。富士写真家のメッカ 三ツ峠山

富士山を撮るには、三ツ峠山が最も均整がとれた富士山。富士写真家のメッカとして知られる。富士山の展望台としての価値がある。富士山の展望台としての価値がある。富士山の展望台としての価値がある。



山頂から御坂山と南アルプス

コース定数 = 23
標高差 = 550m
累積標高差 = 835m / 1235m

CHECK POINT

1. 河口湖から御坂山へ
 2. 三ツ峠山頂 (御坂山)
 3. 山頂から御坂山と南アルプス
 4. 御坂山の絶景
 5. 富士山の絶景
 6. 河口湖の絶景
 7. 三ツ峠山の絶景
 8. 御坂山の絶景
 9. 山頂からの絶景
 10. 富士山の絶景
 11. 河口湖の絶景
 12. 三ツ峠山の絶景

19 富士山周辺と御坂山 04 三ツ峠山

CHECK POINT
 キャプション
 レイアウト決定後
 (48文字程度)

本文
 800字程度
 (理想 800~850)

注記：400字程度 (理想 380~420)



河口湖畔からの御坂山



船津流からの御坂山



大石峠

05 富士山を友に、御坂山地最高峰を越えて縦走する 黒岳

コース定数 = 25
 標高差 = 783m
 累積標高差 = 1055m / 1125m

河口湖畔からは富士山にばかり目がいり、北に連なる御坂山を忘れてしまっている。その間主・黒岳の姿をたまたま目撃するのは、なかなか珍しいものである。もっ

21 富士山周辺と御坂山 05 黒岳



富士山周辺と御坂山 04 三ツ峠山 20

執筆概要

■地図

- ・見開き 2 ページの場合、2 分の 1 ページ大とし、ヨコ位置、タテ位置で、サイズを固定する。
- ・縮尺は 5 万図、2.5 万図のいずれかとし、これで紹介コースがカバーできない場合、6 万図、7 万図等の拡大図、あるいはコース範囲が小さい場合は、2 万図、1.5 万図等も可とする。
- ・紹介コースは赤野、サブコースは緑野とする。
- ・コースタイムは順路・逆路の両方を記す。
- ・注記は簡潔に、本文、チェックポイントを捕う形で

■注記

- * 文字数
- ・全体で 400 字を目処として下さい。
- * アクセス (必須)
- ・電車、バス、タクシーで最寄り駅からの順路を紹介。
- ・公共交通機関の利用が登山には向いていない場合は、その旨を明記する。
- ・マイカーの場合は、最寄りインターチェンジからの経路、近接する市街中心部あるいは国道からの経路を紹介。登山口での駐車の方法にも触れる。駐車場があるのか、路肩駐車なのか。
- * 登山通期
- ・一般的な登山通期、積雪期等にも触れる。
- * アドバイス
- ・本文で触れていない内容で、コースを安全に歩く方法、季節の特徴と行動の注意、日程などを紹介。
- ・特記すべき宿、温泉、味覚、イベント等があれば紹介する。

■本文写真

- メイン写真 1 点、サブ写真 1 点
- ページ追加ごとにサブ写真 1~2 点追加

■見出しスペース

- 山名/キャッチ/山名の読み方/標高 (整数) / 難易度・体力度=各 4 段階
- 日数 (日帰り、1 泊 2 日など) / 歩行時間 / 歩行距離/標高差=登山口とコース上の最高地点間の標高差

06 根拠を欠いた岩山へ隣接する群峰の孤峰をセレクト

日帰り

赤岩岳 大ナゲシ

群馬県 土佐町

コース距離 19
標高差 630m
累積標高差 840m
840m

25 奥秩父 06 赤岩岳・大ナゲシ

24 奥秩父 06 赤岩岳・大ナゲシ

- * 問い合わせ
- ・行政問い合わせ、交通、宿など
- * 2 万 5000 図
- ・2 万 5000 図の図幅名